

## 『見守られている安心感』

多久市立東原産舎東部校 6年 徳島 唯

社会を明るくする運動は犯罪者に罪を二度とおかさないように支えることだと知りました。運動を行うことは、今の私には難しくどうしていいかも分からなかったので今、自分にできる社会を明るくすることについて考えてみました。

私が考える「人」は人生を一生けん命に生きる人たちですが、世の中には人生がいやになる人もいます。例えば、私がたまたま読んだ「いじめ」という本はある女の子がグループにいじめられ、生ごみをかけられたり、暴力をふられたりする話。私はそこまで読んだあと少しとまどってしまいました。いっしょのクラスにいる友達に暴力をふるうなんてできない。そう思っているのは、自分以外にもたくさんいると思います。私のクラスはみんなが協力しあい、助け合います。でも私の友達に聞いてみるととなりのクラスの子なんだけどと言って話してくれました。

「私、となりのクラスの子に悪口を言われたの。でもちよくせつ聞いたんではなく、友達に教えられた。その時、すごく悲しくて教室でないてしまった。」私はその話を聞いてもしかしたら自分もと感じてしまいました。見えないだれかがいじめているかもしれなと思うときようふを感じました。ちよくせつ言っていないからだいじょうぶという心のあまい考えが人をいじめるかぎになるんじゃないかと感じました。しかもインターネット上ではたくさんのおいじめのニュースがあり、なかには自殺してしまう人もいます。あるニュースの話

によると小5の生徒がマンションから飛びおりて死亡したきっかけは、いじめじゃないかということでした。小5と言えば、二分の一成人式がある年でしょうらいの夢もあつただろうし、まだやりたいことだつてあつただろうなと思ひました。人をいじめることによりいじめられた人が自殺にまでおいこまれてしまうのはつらいです。実際、インターネットでの中傷で自殺においこまれた人もいます。それに、いじめる人はゲーム感覚のようにおもしろがりながらやる人もいます。自分ではいじめてないと思ひていたとしてももしかしたら相手につらい思ひをさせているかもしれませぬ。それに、私の友達の話のようにかげで言われているかもしれませぬ。でも、まわりの人だつていじめを助ける責任があると思ひます。自分一人じゃどうにもできないことでも、先生にそのことを話すだけでもいじめられている人を守れるかもしれませぬ。いじめられている人を見て見ぬふりしてしまつたら、いじている人と同罪のように入じます。

私はいじめられたことがありません。それにいじめられている現場を見たこともありません。それは、とても幸せなことだと思ひ私には気づかつてくれる友達がたくさんいます。近所では、たくさんの方が「おはよう。がんばつとるね」とか、「気をつけて行きんしゃい」とか言つてくれます。私はその言葉をきくたびに見守られているという安心感があります。いじめは、あつてはならない犯罪だに入じます。でも、もしかしたら今どこかでいじめにあつている人がいるかもしれませぬ。いじめられる人がいるということはいじめる人もいます。そして、もしかしたら命を絶つと入思ひている人がいるかもしれませぬ。みんな命は一つです。私もだし、家族もだし、クラスの友達もどんなに強い人もです。そして命を失えば、みんなと会えなくなります。私にも黒い心はあります。ちょっとだけならと思ひていてもそれはどんどんエスカレート

します。そしていつかは身近な人の命をうばうことがあるかもしれないと感じました。でも、そんな時に助けてあげれる人になりたいです。相談に乗ったり、先生に言ってあげたり自分では関わりたくないと思っても強い心、温かい心で守ってあげたいです。そして二度といじめのない社会が絶対来ることを心から願っています。そして、だれも見守られているという安心感を感じられれば犯罪も減っていくのではないかと思います